第3種郵便物認可　日刊スポーツ　2015年(平成27年)9月5日

ニッカン 宅配プラス1

あの人に聞きたい 著名人にロングインタビュー

黒ネコのタンゴも 吉永小百合も生んだ ひばり児童合唱団

伯母で創立者の皆川和子さん描いた「太陽がくれた歌声」出版

皆川おさむ氏

「黒ネコのタンゴ」で知られる皆川おさむ氏（52）が、「太陽がくれた歌声」を出版した。吉永小百合（70）の映画デビューのきっかけとなった「ひばり児童合唱団」創立者で、昨年亡くなった伯母の皆川和子さん（享年92）の生涯を描いた。昭和ならではのエピソードを、次々と明かした。

「太陽がくれた歌声」を手に猫の造形の前で笑顔を見せる皆川おさむ氏（撮影・松本俊）

6歳で人生の転機

東京・目黒区洗足にある「ひばり児童合唱団」の稽古場は、昔ながらの板張りの部屋だ。木製のげた箱には、団員たちの上履きが多数、入れられている。小さなパイプが重ねて並べられ、奥の棚には、黒、灰色、金色など、さまざまな色のネコの置物が顔をのぞかせている。

「あのネコ、実は僕が作ったんですよ。『黒ネコのタンゴ』の前からずっとネコ好きだったんですけど、歌っていた時は、事務所の社長に『ネコの毛はのどに良くない』と言われて、犬しか飼えなかったんです」

白髪交じりの頭を触りながら、おさむ氏は気さくに明かした。

「以前は造形デザインをやっていて、ああいう置物とか、お店のディスプレー（店頭の看板など）を作っていました。インターネット上にはグラフィックデザイナーとか、カーマニアとか書かれてますけど、間違いですよ。車は1台しか持ってないですし。フフフ」

メガネの奥のまぶたにはしわが刻まれ、瞳は優しさであふれていた。

おさむ氏は3歳で「ひばり」に入団した。6歳だった1969年（昭44）に、人生の転機が訪れる。もともと芸能関係者たちと人脈のあった和子さんの存在もあって、同合唱団に日本語カバーのオファーがきた「黒ネコのタンゴ」を歌うことになった。

「レコーディングがあった7月20日は、ちょうどアポロ11号が月面着陸した日だったんですよ。スタジオにあったテレビで、食い入るように生中継を見ていたのを覚えています」

累計で260万枚を売り上げる空前のヒットになった。一躍時の人になり、歌番組だけでなく、映画やドラマにも出演した。

「突然ヒットして、同級生たちも変な感じだったんじゃないでしょうか。別にいじめられるようなこともなかったです。ただ、週刊誌の方とかが学校に来たことは結構ありました」

営業スマイル苦手

当時から、自分が「芸能人向き」ではないことを悟っていた。

「営業スマイルが苦手でした。共演した石坂浩二さんを『笑ってよ～』って困らせちゃうくらいに」

程なく成長期に差しかかり、「芸能人生活」が終わりを告げた。変声を機に、あっさりと引退。合唱団も卒業したという。

「やっぱり、変声は大きかったです。歌が終わりになると、それ以外のこともこれで終わりかな、って。もともと芸能界に対してそこまで欲がなかったし、だんだんと思春期に入って、芸能活動が恥ずかしくなってきていたんですよ」

「太陽がくれた歌声」の約7割は、おさむ氏が生まれる前の時代の話で構成されている。「ひばり」の卒団生たちや、おさむ氏の母親ら、約3カ月で計30人以上に取材をし、その後1カ月で書き上げたという。

「伯母が去年亡くなる前から、本でも出せたらいいねって話していたんです」

1922年（大11）生まれの和子さんは、戦争による疎開先の神奈川・山北町で、合唱指導を始めた。戦後に「ひばり児童合唱団」と改名し、テレビ出演の依頼を受けるような「有名校」に発展させた。

「まだ女性が表にグイグイ出てくるような時代ではなかったと思う。それでも、これだけのことができるバイタリティーがあったのは、すごいと思います」

由紀さおり姉妹も

和子さんは、合唱団の撮影現場に頻繁に足を運んだという。おさむ氏がテレビ収録に臨む際にも、必ず差し入れを持って付き添った。「題名のない音楽会」の現場では、和子さんが差し入れる太巻きずしがスタッフたちの間で好評だったという。

57年、ラジオドラマ「赤胴鈴之助」に出演していた吉永小百合（当時小6）も、ラジオディレクターの勧めで「ひばり」に通い始めた。その後、和子さんの紹介もあって「朝を呼ぶ口笛」（59年公開）で映画デビューを飾ったという。

「吉永さんは、ずっと伯母を慕ってくださいました。僕の7歳の誕生日に来ていただいたこともありました。とても気遣いをされるし、気取らない方です」

由紀さおり（66）安田祥子（73）姉妹や本間千代子（70）も「ひばり」の卒団生だ。

情操教育そのもの

「昭和の雰囲気を知っている方たちに、『ああ、こんなことがあったな～』と当時を思い起こしながら読んでいただければ。サユリストの方にもおすすめしたいですね」

おさむ氏は和子さんから「ひばり」の主宰を引き継いだ。現在、3歳から18歳までの少年少女約40人たちが在籍しているという。

「歌って、情操教育そのものだと思います。今のお子さんって、塾に習い事にと、とにかく忙しいんですよ。合唱団は、息抜きやストレス発散の場でもいいと思うんです。合唱曲にも、流行歌にはない、いいものがいっぱいある。伯母はスパルタでしたけど、今は優しいですよ。フフフ」

ネコたちに見守られながら、歌声の歴史は紡がれている。

【横山慧】

造形デザイナー

◆皆川（みながわ）おさむ　1963年（昭38）1月22日、東京都生まれ。69年「黒ネコのタンゴ」で芸能界デビュー。日本テレビ系ドラマ「花は花よめ」をはじめ、映画やCMなどに出演した。芸能界引退後は、中学で友人たちとバンドを組み、ドラムを始めた。その後、洗足学園音楽大学打楽器科に入学。卒業後は造形デザインの仕事に従事。04年に「ひばり児童合唱団」の代表に就任。